

ライフサイクル制度、業務外注化、ダイ改合理化、基地統廃合、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

# 「10月～面談実施」ジョブローテーション撤回しろ

## 「自己希望」口実に不当配転するな



ジョブローテーション提案について、会社は10月から自己申告書に基づいた個人面談を実施するとしています。「本人の希望を把握する」ためだとされています。

### 何が「主体的にキャリア形成」だ！

会社は「キャリアを主体的に描ける」としています。しかし、その前提に「同一担務は最大10年で異動」「生涯乗務員ではなく多様な経験を」と言っているのです。その上、「外部へのオープンなマインドセットを」などと、出向を「希望」させようとまですています。

現場労働者を「もう今の職を続けられない」という思いにさせた上で、自己申告書を書か

せる。それを「主体的なキャリア形成だ」などと言うのです。

そして、「社員の希望した異動だ」という口実に利用しようとしています。

人の気持ちをもてあそぶ会社のやり方は本当に許せません！

### 「反対」貫くことが攻撃打ち破る道

経験が重要な乗務員を「最大10年」で異動させる狙いは、現場の団結を破壊すること以外にありません。この攻撃を打ち破る道は、現職にこだわり、「反対」を貫くことです。

ジョブローテーションを前提にした「希望」は会社の得手勝手な配転に利用されてしまいます。そもそも、会社自身が「希望通りいかないこともある」といっています。しかもその基準は「任用の基準」——つまり、会社が都合の良いように判断するということです。

動労千葉は組織破壊だけを目的にした乗務員基地廃止攻撃に対し、組織をあげて反撃しました。廃止に伴う配転先も「第1希望以外書かない」という方針を確認しました。「組合の指示に従って第1希望だけだと、どこに飛ばされるかわからない」という会社の卑劣な切り崩しも、組合員全員が一糸乱れぬ団結を見せて打ち破りました。そして、組合員をバラバラに配転し、団結を破壊しようという最大の狙いを打ち破ったのです。

現場労働者が「反対」を貫く限り、職場に闘う団結がある限り、会社も好き勝手に乗務員を配転させることはできません。ジョブローテーションを前提にした「希望」ではなく、「反対」を貫き職場から声をあげよう。